

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	イルカ児童園 (池袋教室)				公表日	R7年 3月 5日
					回収数	7 (100%)
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		室内のドア(窓)が取り外し可能な為イベント時、通常等で分けて使用している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		東京都が指定する配置基準以上の人員を配置している。その日の児童の様子に合わせて、一対一にする事もあれば、今後の自立を見据えて、職員配置を減らす事もある。お子様の発達に応じて配置を工夫している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	駐車場のすぐ横が道路に面している為、飛び出しの危険がある児童には、職員が見送りをする等、対応している。	エレベーターはあるが狭い為、車いす児童が登校園する際は、職員を配置する等配慮が必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	一人ずつ順番で行う等、広さとプライバシー等にも配慮しながら実施している。	もう少し広いと祖大運動やルール遊びがしやすい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	パーティションや個室を活用し、静養時や遊びに集中したい時に、できるだけ使用できるように工夫している。	専門職支援等で個室が使用されている時等、その時の対応方法について、職員間で共有しておきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		日々の振り返りや個人目標シートがある。また、週1回のミーティングや月1回の定例会時に、療育内容の見直しや児童について支援の統一を話し合い、記録も残している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	本部職員との定期的な職員面談を実施している。	話す事で終了してしまう事がある為、具体的な改善案を提案していきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		第三者評価は利用していないが、自己評価を年に1回行っている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		全職員3回以上の外部研修、2回以上の内部研修を今年度は実施した。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	支援プログラムは作成し、板橋区役所前教室とチームを組んで、定期的に会議を行っている。	公表に関しては、次年度実施予定。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		5年以上の保育士、言語聴覚士、公認心理師等の専門職が様々な角度からアセスメントを行い、定期的にモニタリングを行っている。また、関係機関に訪問し、多角的にも分析をした上で、個別支援計画書に落とし込んでいる。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		毎週1回運動面、食事面などで項目ごとに話したり、共通認識をもったりしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		定期的に心理職員や言語聴覚士、作業療法士の専門職が入り、適応行動の状況を把握し、記録している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	3	板橋教室の職員と月1回程度話す機会を設け、チームとして動いている。	チームとしてよりは、定期的なミーティングを実施している。細かい所に関しては個々の力になる事が多い。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		固定化する必要性の有無も考えながら日々工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	毎日行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		毎日行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		個別療育日誌において、記録している。さらに2ヶ月に一回モニタリング記録を行っている。	支援の検証・改善に関しては、全体の療育見直しを中心の為、個々にスポットを当てる必要があると考えている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		モニタリングは2ヶ月に1回、大きくは6ヶ月に1回行っている。それを元に評価を作成し、計画面談を実施・見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		定期的に訪問や電話、オンラインで行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		他療育先との連携も含め行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		ちいさい変化でもきになることがあれば保護者含め、情報共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		就学前から利用している児童においては努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				該当児童なし。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	2	特に身体拘束や児童虐待においては、日々助言、定期的な研修を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	放デイの子は少ないが、なるべくもつようになっている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3	管理者が参加しており、必要事項は伝えている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	保護者会時に家で行えるトイトレーニングの話をしたり日々のFDを大切にしている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		毎回FBを行っており、家庭での様子や療育での様子を共有している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		半年に1回以上行っている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		必要に応じて面談を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	1	父母の会はないが、保護者会の開催は年に1回実施している。また、親子参加型の遠足や行事を実施している。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	1	SNSインスタは月二回程度行っている。おたよりは2,3ヶ月に一回配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		鍵のかかる棚に保管している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4	子ども達と買い物や訪問する事はあるが招待はない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		月一回行っている	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		月一回行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		事業所内だけでなく、他教室など全職員に周知している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				